第１期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

浜松医科大学

平成２３年５月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

（Ⅰ）教育に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】　中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）　「教育に関する目標」に係る中期目標（４項目）のうち、２項目が「良好」、２項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

（参考）

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】　中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）　「教育に関する目標」に係る中期目標（４項目）のうち、２項目が「良好」、２項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

２．各中期目標の達成状況

①　教育の成果に関する目標

【評価結果】　中期目標の達成状況が良好である

（判断理由）　平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（５項目）のうち、３項目が「良好」、２項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、３項目が「良好」、２項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○　中期計画で「医学科においては、浜松医科大学方式の PBL チュートリアル教育の構築とその実施を推進する」としていることについて、臨床実習修了学生（６年次生）に対する教育成果に関するアンケート（自己評価、指導者による評価）を実施し、チュートリアル教育の検証を行うなどプロブレム・ベースド・ラーニング（PBL）チュートリアル教育に関する様々な新たな取組を行う中で、特に教育成果を評価していることは、優れていると判断される。

○　中期計画「国際的なコミュニケーション及び異文化理解に必要な語学力を習得させるため、外国語教育の充実を図るとともに学生の海外派遣を推進する」について、授業内容の改善を図り、世界医学生連盟の交換留学制度に基づく学生の自主的な海外臨床・基礎短期留学を援助し、４年間で 13 名派遣したことは、外国語教育が実質的に機

能しているという点で、優れていると判断される。

○　中期計画で「博士課程では、研究を遂行することを通じて関連分野の高度の専門的知識と技術を習得させるとともに、大学院トレーニングコースの設置等基礎的なトレーニングの充実及びCOEと大学院教育の連携を図る」としていることについて、大学院博士課程では「研究者養成コース」と「研究能力を備えた臨床医養成コース」を設置し、また、平成16年度から合計68名の大学院生をCOE研究員として採用し、平成18年度からカリキュラムに21世紀COEプログラム関連科目を開設した。また、18名の大学院生が科学研究費に採択されるなどCOEと大学院教育の連携を図り、研究員を育成していることは、優れていると判断される。

②　教育内容等に関する目標

【評価結果】	**中期目標の達成状況がおおむね良好である**
（判断理由）	平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（13 項目）のうち、２項目が「良好」、11 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。 平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、２項目が「良好」、11 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○　中期計画「平成 15 年度（医学科の PBL チュートリアルの導入、看護学科の新カリキュラム）より導入された新カリキュラムについて、検証及び評価のための組織を整備し、学生、卒業生、教員及び実習機関等の意見を集約して検証し、充実を図る」について、文書、対話、懇談会等で積極的に聴取した学生及び教員の意見を参考に検討を続け、医学科のプロブレム・ベースド・ラーニング（PBL）チュートリアルに関しては「基礎・社会医学」を１つの大ユニットに編成し、６年次の臨床実習６単位を必修にするなど、具体的な改革を行ったということは、優れていると判断される。

○　中期計画「卒後研修終了後の専門医養成・教育システムを再構築し実施する」について、静岡県内の多くの病院との協力体制が構築されており、平成 18 年度に 60 名、平成19年度には46名と計106名の後期研修医（内当該大学出身者61名）を受け入れたことなどは、優れていると判断される。

（特色ある点）

○　中期計画「多様な入学者選抜を実施するとともに、入学後の成績・進路等との関連

を検証して、入学者選抜方法に工夫・改善を重ね、人間性豊かで社会に貢献できる優秀な人材の確保に努める」について、静岡県出身者の 90 %近くが静岡県内に留まることから、「地域医療への貢献」を強調しているアドミッション・ポリシーに基づき、静岡県内出身者の比率が高い推薦入試の募集人員を増員したことは、入学者選抜の工夫という点で、特色ある取組であると判断される。

③　教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】	**中期目標の達成状況がおおむね良好である**
（判断理由）	平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（５項目）のうち、２項目が「良好」、３項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。 平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、２項目が「良好」、３項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○　中期計画「図書館利用者へのサービス向上を図るとともに、他機関との相互協力、市民への公開サービスを促進する」について、図書館を学生、教職員はもとより、一般市民や地域医療従事者に、土・日曜日の開館時間を延長した。また、機関誌「ぶっくとらっく」を年２回発行し、地域への医療情報提供についての連携強化を行っていることは、優れていると判断される。

○　中期計画「教育企画室を中心として、教員の教育活動の評価システムを検討する」について、教育活動に関する教員の個人評価を行い、その結果を勤勉手当に反映させている。授業評価で問題のあった教員には教育・国際交流担当理事及び調査・労務・安全管理担当理事が授業視察やヒアリングを行い、改善のための指導によって教員の教育の質を向上させるための具体的な取組が行われていることは優れていると判断される。

（特色ある点）

○　中期計画「責任ある教育実施体制を確立するため、教員の配置が適正であるか、学長を中心とした体制で検証する」について、教育組織及び人事について学長を中心とした体制で検証し、「子どものこころの発達研究センター」の設置等、時代の要請に応える機動的な組織のスクラップアンドビルド及び人事を実施していることは、教育実施体制の確立という点で、特色ある取組であると判断される。

④　学生への支援に関する目標

【評価結果】　中期目標の達成状況が<u>良好</u>である （判断理由）　平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（１項目）が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。 　平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、１項目が「良好」であることから判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○　中期計画「保健管理センターによる健康管理・メンタルヘルスケア体制を検証し、整備充実を図る」について、学生のメンタルヘルスケアについて専任の心療内科の医師を配置し、平成 17 年度及び平成 18 年度には学生委員がメンタルヘルス研究会へ参加したことや、平成 18 年度から学生委員に保健管理センターの専任講師を加えるなどの対策を講じて気軽に相談に行ける環境を整えたことにより学生の精神面の相談件数が増加したことから保健管理センターの体制が整備されており、学生への支援という点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

○　中期計画「学生の教育研究活動中の事故及び災害に対処するため、医学生総合保険への加入促進、災害時の連絡、安否確認システムの整備などの一層の充実を図る」について、防災マニュアルを作成するとともに、防災訓練を通して災害時の連絡、安否確認方法を徹底していることは、学生の教育研究活動中の事故及び災害への対処という点で、特色ある取組であると判断される。

<u>（Ⅱ）研究に関する目標</u>

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】　中期目標の達成状況が<u>おおむね良好</u>である （判断理由）　「研究に関する目標」に係る中期目標（２項目）のうち、１項目が「良好」、１項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。 （参考） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。 **【評価結果】　中期目標の達成状況が<u>おおむね良好</u>である** （判断理由）　「研究に関する目標」に係る中期目標（２項目）のうち、１項目が「良好」、１項

目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

２．各中期目標の達成状況

①　研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】　中期目標の達成状況が良好である

（判断理由）　平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（５項目）のうち、２項目が「非常に優れている」、３項目が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、２項目が「非常に優れている」、３項目が「良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○　中期計画「21 世紀 COE プログラムや知的クラスター創生事業を推進し、光医学研究の国際的拠点の形成を図る」について、COE において、ワシントン大学、スタンフォード大学、ケンブリッジ大学、ロンドン大学、米国国立精神保健研究所(NIMH)などとの共同研究を行い、国際シンポジウムを開催した。また、知的クラスターについては民間企業、静岡大学工学部、静岡大学情報学部、静岡大学電子工学研究所と共同研究を推進するなど国際的、地域的共同研究体制を構築していることは、優れていると判断される。

○　中期計画「企業研究者による大学院講義や共同研究成果の発表の企画を組む」について、主に浜松の民間企業の研究者を招聘し、企業研究者を講師とする 21 世紀 COE 企業セミナーを 16 回実施し、グループ交流も行っているなど、国内外の関連企業との活発な交流が行われていることは、産学共同研究という点で、優れていると判断される。

○　中期計画「知的財産の取扱を整備し、静岡 TLO 及び科学技術振興財団等を通じて、研究成果の民間への技術移転を推進する」について、企業から 4,737 万円を超える収入があり、寄附講座の開設に至ったことなど研究成果が反映されており、知的財産の取得、管理、活用に関する知財活用推進本部会議を設置したことなどは、優れていると判断される。

○　中期計画「本学が開発した遠隔地医療システム（テレパソロジーなど）を用いた過疎地医療への支援、本学が展開してきた難病治療支援のネットワークを更に充実発展させる」について、難病治療支援のネットワークの１つの成果として移植 15 件を成功

させたことは、過疎地医療への支援という点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

○　中期計画「光医学を主題とする 21 世紀 COE 拠点施設及び地域知的クラスターの一翼として、メディカルフォトニクスコース技術講習会、イメージング技術実習等を通じ、光医学・光医工学研究者の養成、社会人教育を行う」について、光医学・光医工学の研究開発を担う人材の育成を重点的に行うため、21 世紀 COE「メディカルフォトニクス」技術講習会（５日間全日）を５回開催した。また、光医学研究拠点として、国内外で医学用光イメージング技術の講習会を行い、光医学技術の普及と若手研究者の育成に貢献していることは、特色ある取組であると判断される。

②　研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】	**中期目標の達成状況がおおむね良好である**
（判断理由）	平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（５項目）のうち、１項目が「非常に優れている」、４項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。 平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、１項目が「非常に優れている」、４項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○　中期計画「研究推進企画室において、競争的資金獲得のための方策、外部資金獲得のための受託事業等の受け入れの拡大、学外との共同プロジェクト研究を企画・立案する」について、学内研究者を対象とした科学研究費申請に関する説明会を開催するとともに希望者には申請書の診断等のアドバイザー制度を立ち上げたことや、若手有資格者への環境的支援を行い、約 10 %の申請増につながったこと、また、外部資金の導入に向けての取組は計画どおり行われ、平成 17 年度の教員１人あたりの外部資金獲得額は全国大学中５位であったことは、優れていると判断される。

（特色ある点）

○　中期計画「プロジェクト研究への重点的資金配分を推進する」について、複数講座によるグループを設定したプロジェクトを募集し、提案会を開催して、特別研究費を配分するなど知財活動、社会貢献活動、地域教育活動に対して、その必要経費を配分するのではなく、それらの活動に対する報奨として自由に使える研究費の配分を行い、インセンティブを設けたことは、資金配分の方法という点で特色ある取組であると判断される。

（Ⅲ）その他の目標

（１）社会との連携、国際交流等に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】　中期目標の達成状況が良好である
（判断理由）　「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（１項目）が「良好」であることから判断した。
（参考）
平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。
【評価結果】　中期目標の達成状況が良好である
（判断理由）　「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（１項目）が「良好」であることから判断した。

２．各中期目標の達成状況

①　社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】　中期目標の達成状況が良好である
（判断理由）　平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（２項目）のすべてが「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。
　平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、２項目のすべてが「良好」であることから判断した。

＜特記すべき点＞
（優れた点）
○　中期計画「県や市町村との連携を深め、地域の医療施策の立案等に積極的に参画する」について、静岡県医療審議会、静岡県中央倫理委員会、静岡県精神保健福祉審査会への参画などを含め、全学的には、100 近い委員会等へ委員長や委員を派遣し、地域の医療施策の立案等に深く関与したこと、また、浜松市の医療施策の基本方針の策定に医師やコメディカルを派遣するなど地域医療においても貢献した。また、商工会議所企画の医工連携会議や地元企業との産学連携会議をとおして、産学連携が進んでいることなどは、優れていると判断される。

○　中期計画「地域住民の健康、福祉の増進に資するため、民間企業とも連携し、公開講座や各種の学習機会を積極的に提供する」について、浜松医科大学単独、又は新聞社との共催による公開講座を開催し 800 名を超える市民が聴講したことや、一般市民

対象の健康科学セミナーの開催によって、地域住民の健康・福祉に関する啓蒙活動を行い、200 名弱の参加者があったことなどは、優れていると判断される。

（特色ある点）

○　中期計画「外国人研究者、留学生の積極的な受入れを図るため、受入れ体制を整備する」について、留学生受入れにあたり、平成 16 年度以降、国際交流奨学金及び奨学金の活用により収入の無い私費外国人留学生に月額 7 万円の奨学金を支給し、経済的支援を行っていることは、留学生支援という点で、特色ある取組であると判断される。